

PEN 環境と文学「いま、何を書くか」

2010.9.23(木) — 2010.9.30(木)

会場: 早稲田大学、京王プラザホテル東京
主催: 国際ペン、社団法人 日本ペンクラブ



● 「子どもの本」委員会が目指すもの／野上暁委員長

国際交流の機会である国際ペン東京大会に期待しています

まず「子どもの本」委員会の基本方針ですが、子どもの本とその作家の国際交流を目指していくものです。その意味からも、国際ペン東京大会を重要視しています。大会では、「子ども・環境、そして未来へ」というタイトルのシンポジウムを予定しています。自然環境のみならず、大きな意味で、子どもたちが成長する環境、家族、学校、友だちをテーマにしていきます。海外からは、わが国で翻訳のある人気作家を3人招きます。

● マンガ、アニメと環境についてのシンポジウムも

日本のマンガやアニメは世界中で大変な人気です。昨年の国際ペン・リンツ大会での、「文学と日本のマンガ文化」というフォーラムには、国際ペンのサウル新会長や本部の皆さんが見え、「来年が楽しみだね」と話されていました。東京大会では、「マンガ・アニメは、環境をどう描いてきたか」というタイトルのシンポジウムを予定しています。

子どもの本は歴史的にみても、環境について書かれたものが多いのです。古いところでは宮沢賢治、小川未明はじめ、ペン初代会長・島崎藤村の「ふるさと」にも、自然環境についてふれた文章がいくつもあります。現在出版されている子どもの本を中心に、「環境を考える子どもの本200選」あるいは300選を出す企画も構想中です。

● 発足を記念して2月5日シンポジウムを開催

「子どもの本委員会発足記念シンポジウム」を2月5日午後6時半から東京ウイメンズプラザで開催します。国際ペン東京大会へのプレシンポジウムで、タイトルは「混迷する世界に、子どもの本の可能性とは?」。世界の将来が不透明な中で、子どもの本は何をどう伝えていくのかを問うものです。

シンポジウムには、落合恵子さん、角野栄子さん、里中満智子さん、末吉暁子さん、那須正幹さん、ひこ・田中さん、森絵都さん、令丈ヒロ子さんなど、「子どもの本」委員会の作家が出席します。絵本、童話、児童文学、ヤングアダルト、マンガまで含めた、現状とこれからの可能性について話してもらいます。



▲野上暁「子どもの本」委員長

● 「子どもの本」委員会がコアとなって

「子どもの本」委員会のメンバーには、日本児童文学者協会、JBBY（日本児童図書評議会）、日本書籍出版協会、絵本学会などの会長や理事の方々にも参画いただいています。日本ペンクラブに「子どもの本」委員会ができたことで、それがコアになって、各団体と連携しながら色々企画できそうです。

子どもの本の読者が増えないかぎり、大人の本の読者は増えません。文学、小説など、読み物の入り口は子どもの本からです。ここをしっかりと押えて、いい読書人を育てていく。その意味でも、「子どもの本」委員会は大事だと考えています。

日本ほど、子どもの本がたくさん出ている国はありません。各国ごとにプロパーの翻訳者がいます。その人たちにも入ってもらい、海外から来た作家たちとの交流拡大も考えていきたいです。

(インタビュー／広報副委員長 鈴木康之)

1984年国際ペン東京大会回顧 — その意義と成果

日本ペンクラブが1957年9月に初めて開催した第29回国際ペン東京大会から27年後、1984年5月に二度目の国際ペン大会が東京で開催された。日本での開催が決定したのは1981年9月のリヨンでの国際ペン大会で、この時点から日本ペンクラブの総力を挙げての準備が始まった。

1984年5月14日、第47回国際ペン東京大会は、45ペンセンターから623名（海外ゲスト219名）の参加者を集めて、東京・新宿の京王プラザホテルでの開会式でスタートした。

開会式の挨拶に立ったパール・ウェストベリ国際ペン会長（スウェーデン）は、東京大会のメインテーマ「核状況下における文学——なぜわれわれは書くのか」に即して、「もし人類が核兵器で自滅するとすれば、その後で滅亡を経験する人間は一人もいないし、私たちが今その運命を経験すれば、未来に誰も経験することはないだろう。死滅後、責任をとる者は一人もなくなるのだから、今私たちが完全に責任をとらなければならないということになる」と核時代の文学者の責務について語った。

井上靖会長も「核状況下における文学こそが、現代に生きる文学者が絶えず自分に問いかけるべき最優先の命題である。もう自分一人の幸福を求める時代は終わった。他の人たちが幸福でなくて、どうして自分が幸福になれるだろう。いまこそ、『孟子』の葵丘会議の故事にある、黄河の水を隣国に流し込んだり、兵器代わりに使ったりすることのないよう祭壇の前で誓いの盟約をした英知にならって、人間を信じ、人間がつくる人類の歴史を信ずる文学者の立場に立ちたい」と文学者の命



▲パール・ウェストベリ国際ペン会長

(2) The Japan P.E.N. Club



▲第47回国際ペン東京大会開会式

題を訴えかけて万雷の拍手を受けた。

翌15日から17日の3日間、全体会議と3部門の分科会（「東西の文学関係—現代世界における日本文学」「作家と人権」「文学と映像」）が行われた。発言者は、全体会議が計12名、分科会が計46名を数えた。5月18日、全体会議と分科会の総括が午前中に行われ、正午からの閉会式と午後6時からのさよならパーティーで、東京大会は閉幕となった。

この第47回国際ペン東京大会について、『日本ペンクラブ五十年史』（1987年11月刊）は、「1957年の初の日本での大会が東西交流の名のもとになおエキゾチズムをかかげざるを得なかったのとは違って、具体的に反核をめざすことにより、さらに普遍的な自由や平和への意志を会議に盛り込むことができた」「日本ペンクラブ五十年の歴史を飾る画期的な出来事」と総括している。

この東京大会の成果は、その後の「平和の日」の集いに結実した。東京大会の平和委員会で決まった「平和の日」の第一回の集いが、1985年3月3日に東京・赤坂の草月ホールで開催された。そして、5月にユーゴのブレドで行われた平和委員会で、3月3日を恒久的に「平和の日」と定め、日本ペンクラブが作ったシンボルマーク（「輝く太陽を背にした鳩・世界平和への祈り」）を国際ペンの「平和の日」のシンボルマークとし、毎年この日にキャンペーンを行うことに決まったのである。

（会報委員長 清原康正）

【国際ペン大会 AtoZ】

国際ペンと国際ペン大会／代表者会議／各委員会

2010年9月、国際ペンの世界大会が東京で開催されます。国際ペンは世界の殆どの国を網羅する唯一の文学者組織でもあります。言論、表現、出版の自由を擁護し、文学の国際的交流を増進するとともに、世界平和に寄与することを目的としています。

その意味では革新的、かつ時代を先取りする団体です。だからこそ100年近く、激動する歴史に揉まれながらも活動を継続できた所以でしょう。その基本的活動を簡潔にまとめたものがP・E・N憲章と呼ばれ、世界105カ国に散らばるすべてのペン・センターは、この憲章のもとに活動することが要請されています。国際ペンと世間一般で呼ばれている名称は国際ペン組織のペンネームと言ってよく、正確に言えば「国際P・E・N」が正式な名称です。

国際ペンはまた、年間の活動を総括すべく、各国持ち回りで毎年、国際ペン大会を開催しています。大会は国際ペンの最高決定機関であり、ここで会長や理事などの選挙が行われ、また1年間の活動方針が決定されます。したがって、国際ペンに所属するすべての支部〈基本的には国別に設立〉の代表が参加することになっています。ただ、かなり例外的なセンターも見られます。エスペラント・ペン、旧ユーゴスラビア作家ペン・センター、あるいはカタラン・ペン、バスク・ペンなどその好例でしょう。いずれも過去の国際政治が影を落としています。

また、ここ数年の大会開催場所を振り返ってみると、2009年オーストリアのリンツ、2008年コロンビアのボゴタ、2007年セネガルのダカール、2006年ドイツのベルリンと、世界のあらゆる地域で、かつ持ち回りで開催されているのが良く理解できます。まさに「言論、表現の自由が国境を越える人類共通の価値であること」を見事なまでに証明しているのです。

(常務理事 堀武昭)

国際組織である国際ペンが行う東京大会での会議とは以下の通りです。

国際ペン代表者会議

(日本ペンクラブの総会にあたる)

議題：年度予算・決算、事業報告・事業計画の承認、委員会報告、決議案の採択、ペンセンターの加盟承認等。

☆各ペンセンターの代表2名のみが参加できます。日本ペンクラブも毎年、代表2名を各国で開催される国際ペン大会に派遣しています。開催国ペンセンターも代表2名のみ出席可能です。

国際ペン各委員会会議

(獄中作家委員会、平和委員会、女性作家委員会、翻訳と言語権委員会)

議題：各委員会の活動報告・活動方針・予算等の審議・承認。総会への決議案作成。

☆各ペンセンターからの代表2～3名が参加できます。各国ペンセンターの同種委員会の委員長、もしくは副委員長が原則です。同種委員会がない場合はセンターから代表を決めて出席します。

これ以外に大会ワークショップ等がありますが、こちらも参加は原則として各国代表です。

以上、国際ペン大会のうち、国際ペンが行う会議は原則非公開の上、参加者は各ペンセンターの代表に限定されます。

今回の国際ペン東京大会では、9月23日から始まる文学フォーラム・セミナー、26日からの開会式、歓送迎行事に一般ペン会員の方が参加可能です。さらに27日～30日にかけて、各セミナー、詩朗読会等を予定しており、毎日ペン会員が参加できる企画を用意しています。

また文学フォーラム・セミナーについては一般公開する予定です。

(事務局長代理 井出勉)

【国際ペン東京大会 2010 記念出版へのご協力のお願い】

東京大会にあわせて、会員の皆様の著作を「国際ペン東京大会 2010 記念出版」として刊行していただき、国際ペン東京大会を盛り上げていこうと考えています。2010年10月末日までに刊行する本の帯に、共通のロゴと文言を入れていただくよう、ご協力をお願い申し上げます。詳細は下記の通りです。ぜひ積極的にご参加ください。

◆国際ペン大会年に出版する書籍の帯等に
右記の共通ロゴと文言を入れてください



目的 東京大会を広く広報し、日本ペンクラブ会員の参加意識を高めるため

参加資格 日本ペンクラブ会員であること

対象著作物 2010年10月末日（目安）までに刊行される新刊書籍。文庫本、

絵本、シリーズの1冊、コミックス、翻訳書（要原著者同意）も可。重版は不可。何冊でも可。国際ペン憲章に反せず、特定の宗教や政治、商業用の宣伝物でないこと。

登録手続（登録期間 2010年8月末日まで）

- ①作品名、著者、出版社、定価、原則としてISBNコードを付し、簡単な概要等を添えた所定の用紙（会報に差し込んであります）にて事務局へ登録を申し込む。
- ②大会事務局内で審査、承認（不承認となる場合あり）の上、著者には大会ロゴ+「国際ペン東京大会 2010」の印刷用清刷を送付する。
- ③著者は出版社と相談し、清刷をもとに本帯に掲載する。
- ④出版後、著書2冊を事務局に送付する（返却しません）。

記念出版の大会での取り扱い

- 1 作品名・出版社名・著書名をホームページ・大会冊子・報告書等に掲載する。
- 2 大会期間中、寄贈された1冊を会場で展示する。

実行委員会メモ 国際ペン東京大会 2010 準備活動 これまでの歩み <その3>

10月2日 京都例会にて浅田専務理事より東京大会準備報告、ならびにポストコンGRESS・ツアー・セミナー、京都例会の同時開催を発表。

10月13日 第9回実行委員会 日本ペンクラブ大会議室（以下同）

グリーンページ（大会広報誌）創刊報告。外部委託会社内定、ポストコンGRESS・ツアーとセミナーを京都で開催、大会参加方法検討、海外代表の宿泊について報告。

10月19日～10月25日 オーストリア・リンツで第75回国際ペン大会。日本ペンクラブ参加者は28名。総会で阿刀田会長より東京大会を紹介。東京大会記念セミナー「漫画と世界文学」（講師 野上暁・森絵都 参加 小中陽太郎）を大会会場で開

催。大会参加者に東京大会・日本ペンクラブ紹介パンフレット等配布。

11月11日 第10回実行委員会 今回より日本コンベンションサービスが会議にオブザーバー参加。リンツ大会報告。広報部会より展示用資料を調査（日本ペンクラブ所蔵分）の報告。

環境委員会の映画上映。宿泊施設、早稲田通り商店街との協働等検討。開会式プログラム検討。

11月26日 ペンの日にて東京大会紹介パネル、記念出版書籍を展示。

12月16日 第11回実行委員会 東京都の行事（都庁展望台でのレセプション）、海外作家招聘進捗、早稲田大学依頼事項、記者会見 3月予定、詩アンソロジーちらし、環境文学100選募集ちらし送付。

告知板

前回の東京大会（1984年）の資料・写真や参加グッズ、色紙などを展示用に借
用させていただきたいと考えていますので、お持ちの方は、事務局・岡部までご連絡
ください。（FAX：03-5695-7686）

2010年1月15日発行 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町20-3 社団法人 日本ペンクラブ

編集：国際ペン東京大会実行委員会・広報部会 相澤与剛・鈴木悦子・鈴木康之

(4) The Japan P.E.N. Club

url: <http://www.japanpen.or.jp> mail: info@japanpen.or.jp